

## 令和3年度 奈良県立大学 地域創造学部 一般選抜（前期日程） 小論文問題（その2）

第2問 次の文章を読み、以下の問1と問2に答えなさい。

僕は1980年代前半に長崎大医学部に入学しました。当時、人類は感染症を克服したという楽観論が世界に広がっていました。抗生物質やワクチンが開発され、米政府の高官が「感染症の教科書を閉じ、勝利宣言する時が来た」と議会で発言したこともあり、世界保健機関（WHO）による天然痘の根絶宣言もありました。

僕の周りでも「感染症は制圧したから、これからのテーマはがんと加齢の仕組みだ」と話していました。

しかし甘かった。その後、エイズ、エボラ出血熱など、新しい感染症が次々と顕在化し、人々は対策に追われます。今回の新型コロナウイルスもそうです。

人類が感染症を本格的に体験するのは約1万年前です。農耕生活が始まり、人間が野生動物を家畜化したことが引き金になりました。野生動物の持つウイルスが人間と社会に持ち込まれ、病気を発生させます。ウシからは天然痘、アヒルからインフルエンザ、といった具合です。

人から人へウイルスは感染し、天然痘、ペストなどが、交易や戦争などととも世界に広がります。

なぜある感染症が流行するのか。僕たち研究者はウイルスの種類や特性を調べ、原因を突き止めようとしてきました。しかし、僕は最近、実は逆ではないかと考えるようになりました。(1) 流行するウイルスを選び出し、パンデミックへと性格づけるのは、その時々  
の社会のあり方ではないかと。

僕たちの社会にはいつも様々なウイルスが入り込もうとしている。たまたま社会がそれに適した状態になっていると、ウイルスが入り込み、わーっと広がっていく。

たとえばエイズウイルス（HIV）は、アフリカのチンパンジーに寄生していました。そのチンパンジーを食べた人間が感染します。そして感染を拡大させたのは、植民地政策と近代医学の導入という当時の社会状況です。

植民地での都市作りのためにたくさんの男性労働者が街に集められました。男女の比率がすごくいびつになり、売春が流行します。一方で慈善的な意図から、アフリカの風土病の注射治療も行われました。ただ、注射器は使い回しでした。そうやって感染が広がる土壌が生まれます。

植民地以前なら極端にいびつな男女比にはならないし、注射器の使い回しもなかった。偶然ウイルスに感染しても、流行の袋小路に入り、やがて社会から消えていったと思われまふ。

今回の新型コロナウイルスはどうでしょう。都市に人々が密集し、地球の隅々まで交通網が発達し、人々が移動、交流する。ウイルス拡散のスピードも速い。現在の社会のあり方がパンデミックの格好の「揺りかご」になったのでしょうか。

ウイルスや感染症のふるまいは謎に満ちています。その様子は、地球規模のミステリーのようなのです。

ウイルスは動物や人間に寄生しないと生きられません。寄生先の細胞を利用して、自分を複製します。その時に性質が変わったり強毒化したりします。毒が強くなりすぎて、自ら消滅してしまうこともあります。

歴史を見れば、突然流行し、謎のように消えた感染症はたくさんあります。

2003年に流行したSARS（重症急性呼吸器症候群）は、コウモリ、ハクビシンなどに寄生したウイルスが人に感染したとみられています。今は流行が収まったかには見えますが、ウイルスは永遠に消えたのか、どこかで深い眠りにについているだけなのか、物語は終わったのか、次の幕が開くのを待っているのか。誰にもわかりません。

ここ50年から100年ぐらいの間に新しいウイルスがどんどん見つかっています。人間がものすごい勢いで地球のあらゆる場所へ進出し、熱帯雨林などを破壊しているためでしょう。

野生動物とウイルスが調和的に過ごしていたところに人間が侵入し、調和を壊す。すると今度はそのウイルスが人間の社会に入り込もうとする。人間とウイルスは作用し合っています。

ただ、悪いことだけではありません。ひとたび感染すると、人間には抵抗力がつかます。

新型コロナウイルスの感染者の多くは無症状や軽症のようです。感染者が抗体や免疫を持てば、それ以降は、季節性が散発的な流行がぼつぼつとあるという状態になります。性質が似た新たなウイルスへの防波堤の一つにもなります。それが社会が集団としての免疫を持つということです。

おかしな例えかもしれませんが、映画「七人の侍」のイメージです。野武士の略奪に困窮した村の農民が、7人の侍を雇って野武士と戦います。異質な侍を村に入れれば、何が起こるかかわからない怖さがあります。7人の侍は言わばウイルス。うまく取り込めば、村は外敵に対して強固になる。それと似ています。

人間は様々なウイルスに感染してきました。自然界の中でも感染症のレポーターをたくさん持つ動物です。そのことが我々を生態系から守ってくれています。(2) いかにかウイルスと共存していくか。多様性の確保が重要です。

（山本太郎「文明が生む感染症」読売新聞朝刊2020年3月29日より作成）

問1 筆者は、下線部（1）の様に主張しているが、近年、人間が新型コロナウイルスなどの新しいウイルスに感染しパンデミックに至る、社会のあり方についての筆者の考えを、150字以上200字以内で、まとめなさい。

問2 筆者は、下線部（2）の様に述べているが、ウイルスの事例以外に、あなた自身の経験や社会全般において、他者と共存し、多様性を確保することが重要だと思ったことについて、具体的な事例をあげて、400字以上500字以内で、述べなさい。